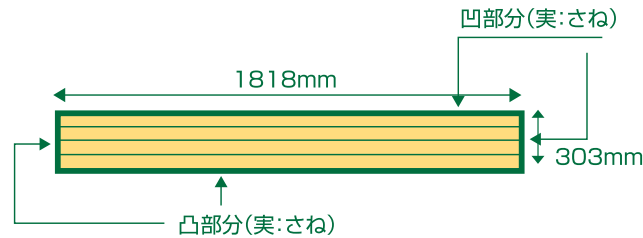


フロア材を張るための準備

1 必要なフロア材の枚数を用意します。

3枚で1畳分、一束6枚入り一坪分

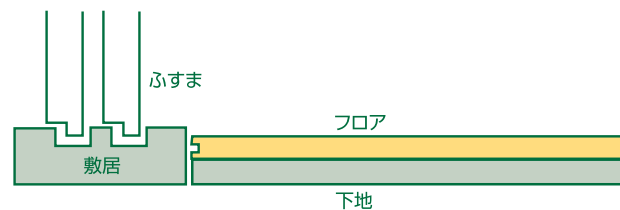


2 開口部の段差確認

①畳をフロアに張り替える場合、畳を上げて敷居と荒床(杉板または合板)の間隔を測ります。畳の厚さは60mmが一般的で、施工面が敷居よりも少し低めが無難に仕上がります。(カンナが使えれば敷居と平行の方が見栄えがよくなります)

②カーペットをフロアに張り替える場合、隅をはかして下地の合板とドアの間隔を測ります。(フェルトを敷いてある場合はグリッパーも取ります。)
※下地の合板とドアとの間隔に12mm厚のフロアが入らない場合は6mm・8mm厚等のフロア材が必要になります。お取り寄せになりますので、係員にお申し付けください。

① 敷居との間隔



② ドアとの間隔




用意するもの

材 料

- ・フロア材
- ・フロア釘38mm
- ・巾木(必要に応じて使用)
- ・廻縁(巾木に合わせて天井と壁の境目に使用)
- ・ケーシング釘(巾木に使用)
- ・木工ボンドまたはネダボンド
- 必要に応じて使用する材料(畳からの張り替え)
- ・赤松45×36mm
- ・12mm厚合板
- ・あて木

道 具

- ・電動丸ノコ・ジグソー
- またはノコギリ
- ・さしがね
- ・センタポンチ
- ・玄能(カナヅチ)
- ・カンナ
- ・メジャー
- 必要に応じて使用する材料(畳からの張り替え)
- ・充電ドライバーまたはインパクトドライバー
- ・木ねじ



(社)日本DIY協会認定DIYアドバイザーが、ご質問にお答えいたします。
お気軽にお声をおかけ下さい。

サービスのご案内

-  配送・ベカン便
-  切り売り商品
-  修理
-  返品・交換
-  表札・額の受注
-  スペアキーづくり

●クレジットもご利用になれます。





制作発行 / 株式会社セキチュー 販売促進部
〒370-1201 群馬県高崎市倉賀野町4531-1

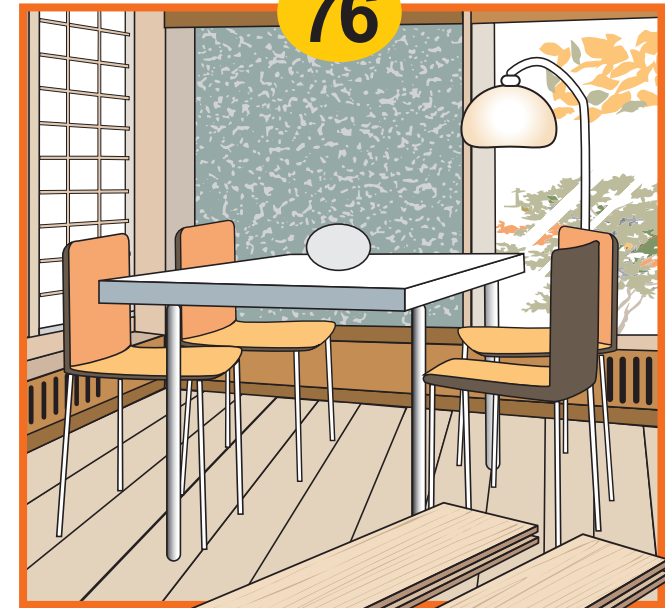
TEL.027-345-1111(大代表)

フローリングの張り方

自分でやってみよう!

セキチュー
HOW TO D.I.Y

76



和室だったところを洋室にする場合、畳に代ってフローリングの床材を張りますが、難しいと初めから尻込みして業者にまかせてしまいがちです。でも、どなたでもコツさえのみこめば、DIYで簡単に張れますので、ぜひチャレンジしてください。また、現在張ってあるフロア材が汚れてしまったり、はがれかかってきたりして危険なので張り替えるという場合も、同じ要領で張り直しができます。

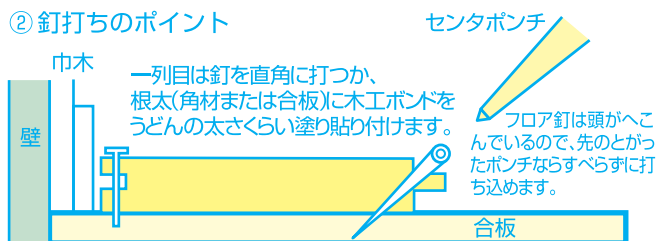
フロア材を張る手順

1 作業を始める前に

① 切断のポイント

フロア材のカットする部分に線を引く場合は裏面に引きます。(表面は加工してあるので線が付きにくい)
線にさしがねを当て、カッターでなぞって溝を付ければ比較的まっすぐにカットできます。カットする時も裏面を上にして切れば、バリが上に出るので表面が傷つきにくくなります。

② 釘打ちのポイント



凸部分(実:さね)にフロア釘を斜めに打ち、フロア材の角を傷めないようポンチで打ち込みます。

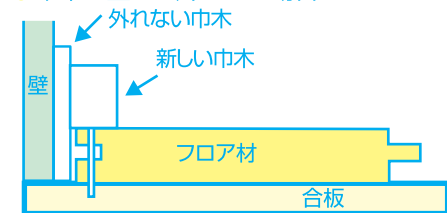
③ 踏み鳴り・浮き上がり対策

踏み鳴り・浮き上がりを防ぐために根太(角材またはコンパネ)に木工用ボンドを塗ります。さらに二階の場合は、落下音が一階に響くので、遮音シートを入れることをおすすめします。
店の売場に無い場合はお取り寄せ致しますので、係員にお申し付け下さい。

④ 壁際の処理(巾木の取り付け)

巾木は、壁とフロア材とのすき間や釘を隠すために取り付けます。

● 巾木が壁から外せない場合



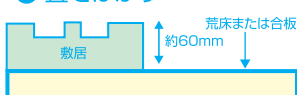
● 今までついていた巾木を付け替える場合



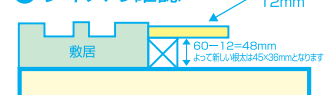
2 畳からフローリングへの張り替え

(カーペットからの張り替えにも応用できます)

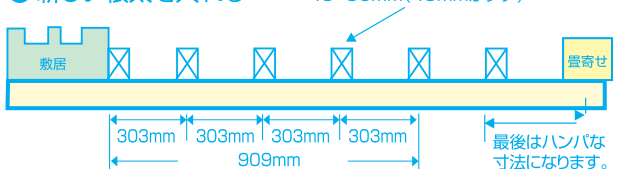
① 畳をはがす



② サイズの確認



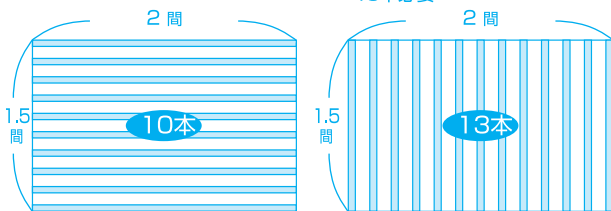
③ 新しい根太を入れる



新しい根太を入れる場合、荒床に打ってある釘の並び方で床下の根太の向きを調べます。床下の根太と新しい根太が直角になるように、仮置きしてから、釘か木ネジで固定して下さい。

例：6畳の場合の新しい根太の本数

- A 入れる方向が1.5間方向(2700mm)なら約3660mm物が10本必要
B 入れる方向が2間方向(3660mm)なら約2700mmにカットした物が13本必要

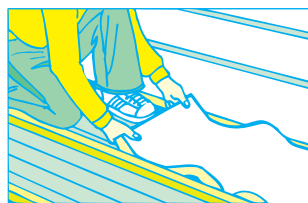


※ここで根太を止めるのに木ネジをつかえば、もし間違った場合のやり直しが効くのでたいへん便利です。

④ フロア材の下に断熱材を入れましょう。

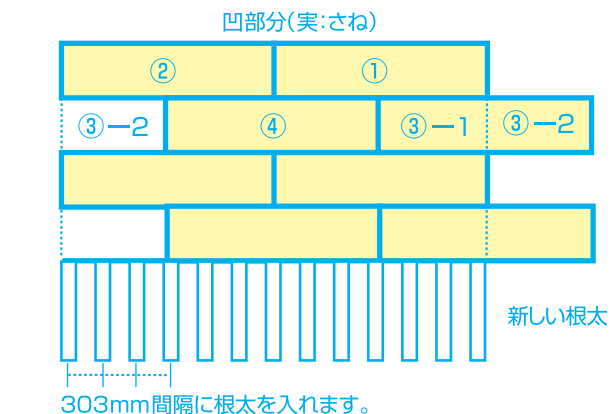
せっかくですから、フロア材を張るのならその下に断熱材を敷きこんでみましょう。床下暖房とはいきませんが、お部屋の熱効率率は良くなります。

厚さ50mmのグラスウールを、根太と根太の間にすきまなく敷きこむだけです。根太と根太の間は断熱材の幅よりもいくぶん狭くなっていますが、フロア材を上から張ってしまえば、問題はありません。



5 フロア材を千鳥に張る

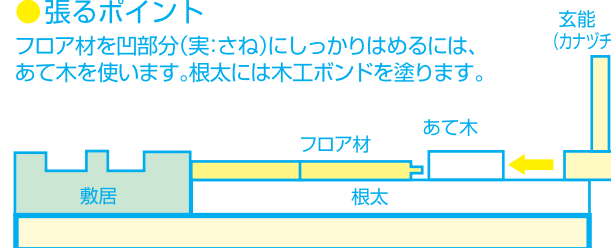
(必ず継ぎ目が根太の上にくるようにします)



- ①を壁に向かって凹側を突きつけて張ります。
- ②は寸法を現場に合わせて測り、左側をカットして張ります。
- ③は半分にカットし、残りを反対側に寸法を測ってカットして使用します。
- ④はそのまま残します。

● 張るポイント

フロア材を凹部分(実:さね)にしっかりとめるには、あて木を使います。根太には木工ボンドを塗ります。



● 張り終わりのポイント

張り終わりのフロア材は寸法を現場で測り、凸側をカットします。最後のフロア材は釘打ちせず、はめ込みます。

